



仙台市営交通100周年

1926 >>>>>>>>> 2026



ひととまちをつないだ100年の記録

これからも、
お客さまとともに、
このまちとともに



ひととまちをつないだ 100 年の物語 その想いは未来へと続く

仙台市交通局のはじまりは、大正 15 年に産声を上げた「市電」でした。

それから 100 年、市バスや地下鉄に形を変え、市民の足を担ってきました。

慌ただしく職場へ向かう人々、おしゃべりに夢中な学生たち、

笑顔あふれる休日の親子連れ…あらゆる人々の大事な時間を預かり

安全に、快適に利用できるよう努めてきました。

戦前・戦後の激動の波を潜り抜け、高度経済成長期を支え、

「東北の中核都市を機能させる」という矜持を持ち

仙台市の発展とともに重要な交通インフラとなりました。

東日本大震災や新型コロナウイルスの災禍にも

着実に対応し、乗り越えてきました。

市民に寄り添い、愛された、誇り高き 100 年。

これからの 100 年も、ひととまちをつなぎ

未来へ向かって歩み続けます。

仙台市長あいさつ.....	6
写真で振り返る思い出の100年.....	8
本編.....	17
近代交通の黎明を告げる大正～昭和・戦中まで	
第1章 市電開通・市バスの運行開始.....	18
市電の開通.....	20
市電の路線拡張.....	22
戦時中の市電.....	26
Pickup story 戦火の中での女性運転士.....	27
市バス営業開始.....	29
戦後復興・高度経済成長期を経て市電廃止へ	
第2章 戦後の仙台 市電と市バスが本格的に市民の足に.....	30
市電全線運転再開.....	32
市内定期観光バス運行開始.....	34
ワンマンバス運行開始.....	36
仙台市電全線廃止.....	37
ありがとう市電—市民に寄り添い続けて50年—.....	38
Interview「仙台市電」とともに100周年を祝う.....	40
想いをつなぐ感謝のメッセージ.....	41
東北の中核都市形成へ新たな交通体系の構築	
第3章 新たな交通インフラ整備—地下鉄開業へ.....	42
仙台駅西口バスターミナル誕生.....	44
地下鉄南北線起工式.....	46
地下鉄南北線開業.....	48
南北線(泉中央—八乙女間)延伸起工式.....	50
泉エリア発展の契機(泉中央—八乙女間)開業.....	51
想いをつなぐ感謝のメッセージ.....	53
車両の安全面と利用者の快適性を追求	
第4章 市民に寄り添う多様なバス.....	54
リフト付バス運行開始.....	56
「ギャラリーバス」運行開始.....	57
ワンステップバス運行開始.....	58
ノンステップバス運行開始.....	59
パークアンドライド事業開始.....	61
観光シティーバス「るーぷる仙台」運行開始.....	62

想いをつなぐ感謝のメッセージ.....	65
Pickup story 時代の変遷と市バスの経営状況.....	66
市の東西を結び沿線まちづくりと歩む	
第5章 地下鉄東西線の開業.....	70
東西線建設本部を設置.....	72
関係する交通事業者との連携により「仙台まるごとパス」が誕生.....	74
東西線本体土木工事着手.....	76
東日本大震災の影響.....	79
仙台の未来へ走り出す地下鉄東西線開業.....	80
地下鉄全線と市バスで「icsca(イクスカ)」導入.....	82
想いをつなぐ感謝のメッセージ.....	83
Pickup story 震災の復興に仙台市交通局が果たした役割.....	84
市民の毎日に寄り添い次の100年へ	
第6章 安全とサービスの両輪で未来へ.....	88
アクセス向上を追求 市バスダイヤ改正.....	90
市バス運行開始75周年 地下鉄南北線開業30周年.....	91
地下鉄南北線漏電による全線運休事故.....	92
業務の効率化に取り組み時代は「令和」へ.....	94
中長期的な観点から「経営計画」の策定.....	95
「仙台MaaS」サービスイン.....	95
新型コロナウイルス感染症への対応.....	96
Pickup story 新型コロナウイルス感染症が経営に与えた影響.....	97
市バス運行開始80周年 地下鉄南北線開業35周年.....	98
地下鉄南北線新型車両3000系デビュー.....	99
想いをつなぐ感謝のメッセージ.....	100
次の100年へつなげる.....	101
資料編	
100年の記憶 乗車券・記念乗車券・磁気カード.....	106
100年を走った車両 市電.....	110
市バス.....	112
地下鉄.....	116
オリジナルグッズ.....	118
年表.....	120
仙台市交通局の紹介 組織機構と職員数.....	128
自動車運送事業の概況.....	129
高速鉄道事業の概況.....	132
運輸成績の推移.....	136



仙台市長 郡 和子

100周年記念誌 市長あいさつ

仙台市営交通は本年、100周年という大きな節目を迎えることができました。大正15年11月の市電開業以来、長きにわたりバス・地下鉄をご利用いただき、市営交通の歩みを支えていただいた多くの皆様に、深く感謝申し上げます。

市営交通は、市民生活を支える重要な社会基盤として、時代の変遷とともに歩んでまいりました。

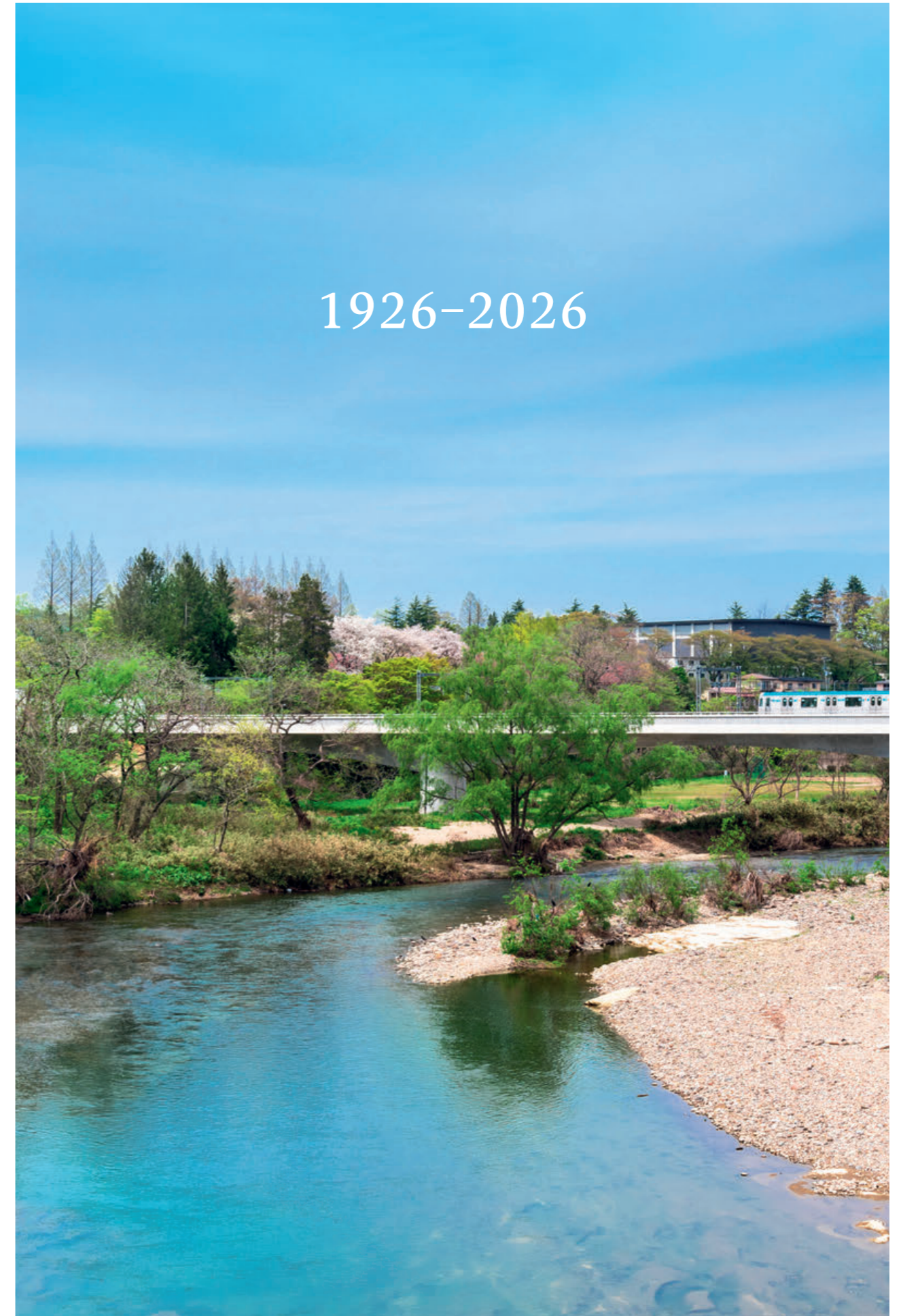
市電は、戦前・戦後という社会や価値観が大きく変化した時代を力強く走り抜け、物資が乏しい中であつても人々の暮らしを結び、戦災復興への希望を運ぶ存在でした。

市バスは、高度経済成長期の仙台の発展を支える原動力となり、市内のみならず近隣自治体へと広がった路線網は昭和50年代にピークを迎え、多くのお客様の生活に欠かすことのできない交通手段として成長を遂げました。

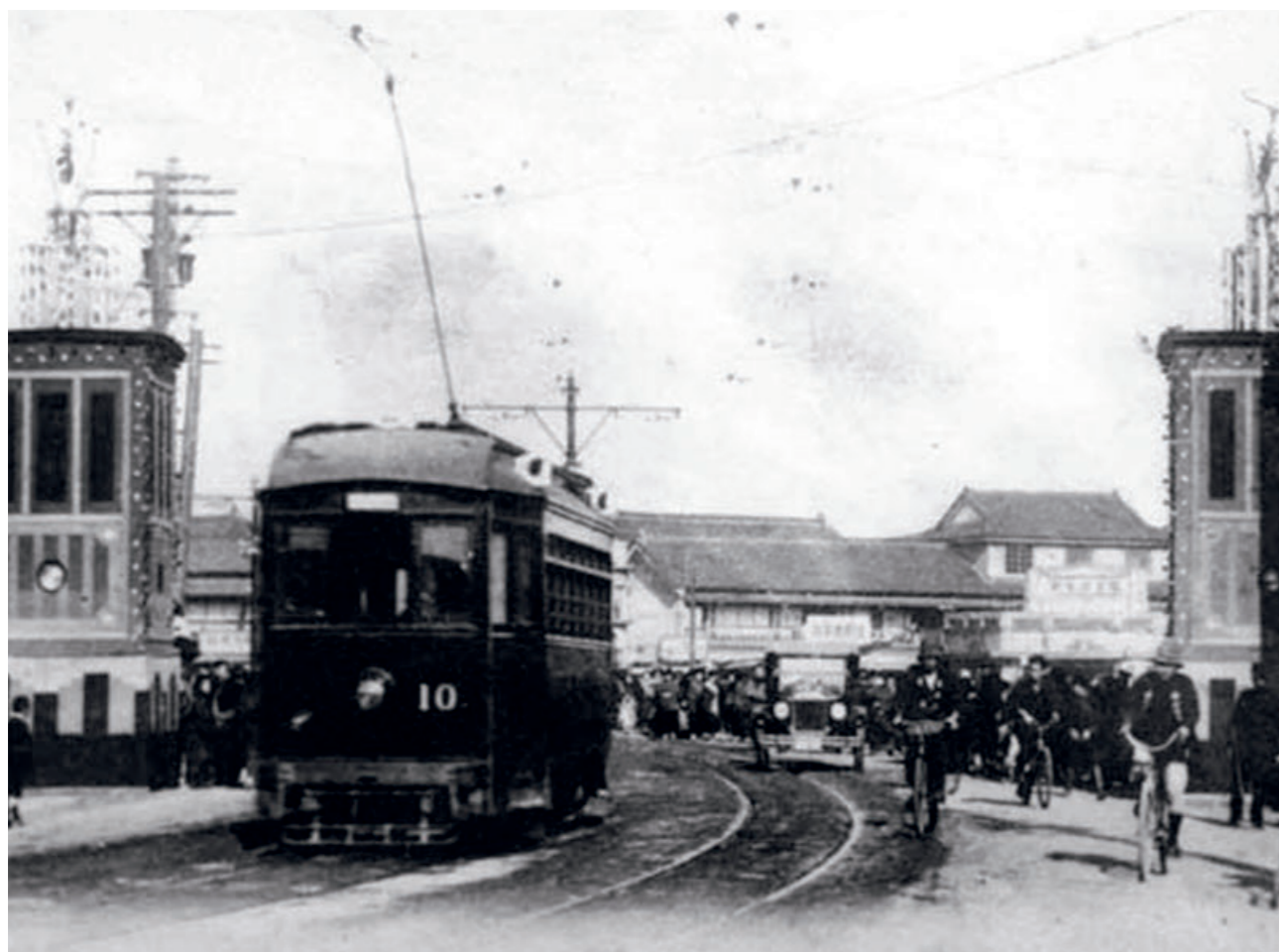
さらに地下鉄は、指定都市への移行を目前に控えた昭和62年に南北線が、東日本大震災からの復興のシンボルとして平成27年には東西線が開業しました。仙台駅を中心とした東西南北の骨格交通軸を形成し、大量輸送を担う都市の基幹交通のひとつとして、本市の発展を力強く牽引してまいりました。

100年前、14万人ほどだった仙台の人口は、現在では109万人となり、東北のゲートウェイとしても多くの方が行き交います。市民の皆様、そして本市を訪れる方々の多様化する移動ニーズに応え、安全・安心で信頼される公共交通の提供という使命のもと、市営交通事業を進めていく所存です。引き続き、変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

これからも、市バスと地下鉄が、「ひと」と「まち」をつなぐ存在であり続けるように、公営の交通事業者として持続可能な事業運営に努め、次の世代へと確実に引き継いでまいります。



市電開通が公共交通100年の扉を開ける



「新しいのりもの」が市民を明日へ運んでいった

晴れの日も雨の日も市電の走る音が響いていた



市民のバスがまちと郊外を結んでくれた

バスターミナルが基点となり利便性が向上



仙台が地下鉄のあるまちになった

みんなが使いやすく「優しいのりもの」を目指して



次の100年へ歩みを止めない公共交通



本 編

01	近代交通の黎明を告げる大正～昭和・戦中まで.....	18
02	戦後復興・高度経済成長期を経て市電廃止へ	30
03	東北の中核都市形成へ新たな交通体系の構築	42
04	車両の安全面と利用者の快適性を追求	54
05	市の東西を結び沿線まちづくりと歩む	70
06	市民の毎日に寄り添い次の100年へ	88